

巻 頭 言

人間福祉学部長 芝野 松次郎

本年度、人間福祉学部は完成年度を迎えました。4学年が揃い、ようやく学部が完成したことになります。研究演習（ゼミ）で先輩、後輩の関係ができるなど、人間関係がよい意味で複雑になり、人間福祉学部という小さな環境ですが、学生がコミュニティの構成員として成長する社会的環境が整ったと感じています。同時に成長を阻害する人間関係が生まれる可能性も高くなりますので、これまでより配慮を要することが増えることとなります。学部長として迅速な問題解決を迫られることも出てきています。

社会福祉学科では開設以来、国家資格に関わる法律改正への対応に追われ、カリキュラムの改正が相次ぎました。社会起業学科と人間科学科でも現実に見合ったカリキュラムの改正を行ってきました。こうした改正は一段落しましたが、昨年、学部長として各学科に次のような依頼をいたしました。すなわち、学生にとってよりよい学びができるように、学部のディプロマポリシー（DP）と各学科のミッション及びカリキュラムポリシー（CP）を明確にした上で、現行カリキュラムを点検し、2012年度以降のカリキュラムをより充実するように検討をお願いしました。本年、各学科より2012年度の入学生から適用される新カリキュラムが提出されました。本学部設置の趣旨がより明確になるとともに、各学科の特色が出せるカリキュラムとなっており、学生達の学びがよりよいものとなると信じています。

当然のことですが、アドミッションポリシー（AP）についても検討されています。学部のDPおよび各学科のミッションにふさわしい学生に入学していただくための入試方法に関して少しずつではありますが、改善が行われています。

本学部の構想がスタートし、新学部設置準備室が設置されたのは6年前のことになります。設置準備室長を拝命し、社会学部社会福祉学科の教員、スポーツ科学・健康科学研究室の教員、産業研究所の教員、そして設置準備室事務長をはじめ多くの事務室の方々とともに、他学部の教員、大学、学院の職員の方々に支えられ、2年の準備期間を経て、人間福祉学部が開設されました。そして、学部長を拝命し、早くも4年が経ちます。学生数も1,300人を超え、2012年3月には最初の卒業生を送り出します。私は、その3月をもって学部長を辞し、次期学部長の牧里毎治先生にバトンタッチします。4月からは一教員として学部、学科、研究科の教育と研究に貢献することになります。本誌の巻頭言もこれが最後となりました。これまで頂戴しました多くのみなさまの多大なご支援に心より感謝申し上げたいと思います。ありがとうございました。